

天竜区春野町の在来種を活用した伝統野菜アグリツーリズムに関する研究

浜松学院大学 学生団体「やまびこチャレンジ」

指導教員：教授 津村公博

研究コーディネーター：田島喜代美

参加学生：中野 智晴, 渥美里帆, 足立 圭, 遠藤 彰人,
大橋 佑紀, 小池 彩貴, 坂本 慧, 柴田 海斗, 竹内 将太,
竹内 里映, 丸野 太暉, 宮本 祥沙

1 要約

やまびこチャレンジは、これまで、そばを中心に種苗メーカーなどからタネを購入して、スーパーなどで並ぶごく普通の「一般種」を栽培してきた。しかし、栽培を続けるなかで、浜松市天竜区には、地域の中で農家に脈々と受け継がれてきた「在来種」と呼ばれる伝統野菜が存在している事がわかった。「在来種」の野菜は、形が不ぞろい、種の管理が難しい、発育が遅いなど生産効率が良くない欠点もある。しかし、現在、地域の食の魅力を観光的に活用する動きがあり、特に伝統野菜は新たな誘客を生む魅力ある観光資源として見直され、観光客の増加につながっている。天竜区春野町に伝わる貴重な種の研究をすることにより、地域の活性化につながると考えられる。天竜区春野町勝坂地区は、かつては春野町の在来種のそばやすみれ菜や石川県加賀の太きゅうりの流れを汲む太きゅうりを栽培していた農家が存在した。

観光地域づくりに関する研究の一環として、伝統野菜を地域限定性の高い付加価値性を重要な観光資源として捉え、地域の住民と協働し着地型のアグリツーリズムを実施し、地域の魅力発信の効果を調査を実施した。

2 研究の目的

観光地域づくりに関する研究の一環として、伝統野菜の地域限定性の高い付加価値性を新しい観光資源として、伝統野菜アグリツーリズムの効果を検証する。

3 研究の内容

本研究の伝統野菜アグリツーリズムの対象の「在来種」は、天竜区春野町の地域性が高く地域を反映する以下の3種類を選んだ。

蕎 麦：天竜区春野町に残されている在来種

きゅうり：春野町勝坂地区で一人の高齢者に受け継がられ、100年以上栽培しているきゅうり
(石川県加賀太きゅうりと近い種と言われている)

すみれ菜：天竜区春野町の農家の庭先で60年前から栽培されている伝統野菜である、すみれ菜
(標準和名：水仙寺菜)

本研究は以下の通り実施した。

- ① 天竜区春野町の伝統野菜の調査（勝坂地区で住民からの聞き取り）
- ② JA 遠州中央からの聞き取り調査
- ③ 本研究の対象である「在来種」の決定
- ④ 研究計画
- ⑤ フィールド調査
- ⑥ 伝統野菜アグリツーリズムの発信（ホームページ、SNS）
- ⑦ 伝統野菜アグリツーリズムの実施
- ⑧ 伝統野菜アグリツーリズムの評価

4 研究の成果

(1) 当初の計画

(2) 実際の内容（Aは予定どおり、Bは一部修正、Cは中止など）とその理由

	当初の計画	実際の内容	
5月	これまでの活動の情報発信及び本研究活動の発信準備（ホームページの制作）	A	予定通り
	フィールドワーク事前指導	A	予定通り
	在来種の聞き取り調査①5/10	A	予定通り
6月	伝統野菜アグリツーリズム実施に関わるフィールドワーク① (天竜区春野町にて在来種の聞き取り調査② 6/3)	A	予定通り
	伝統野菜アグリツーリズム実施に関わるフィールドワーク② (天竜区春野町にて在来種の聞き取り調査③及び土壌・改良 6/17)	B	都市部での活動に変更
	伝統野菜アグリツーリズム実施に関わるフィールドワーク③ (天竜区春野町にて、土壌改良 6/24)	B	収穫時期の状況により、6月3日に実施
	伝統野菜アグリツーリズム実施に関わるフィールドワーク④ (天竜区春野町にて、農業指導 7/1)	B	都市部での活動に変更
7月	伝統野菜アグリツーリズム実施に関わるフィールドワーク⑤ (天竜区春野町にて、農業指導 7/8)	B	収穫時期の状況により、6月17日に実施
	伝統野菜アグリツーリズム実施に関わるフィールドワーク⑥ (天竜区春野町にて、農業指導 7/15)	B	都市部での活動に変更
	春野町の児童会を招いて「春野町伝統野菜アグリツーリズムパイロット実施（収穫祭）」(1)	B	台風により中止。勝坂自治会への蕎麦打ち披露に変更
9月	在来種（きゅうり・そば）の収穫と勝坂神楽茶屋での販売(2)	B	作物の生育状況により、都市部での販売、およびフィールドワークへ変更。
10月	在来種（きゅうり・そば）を活用した料理の浜松市内都市部での販売	A	アグリツーリズム①を実施。フィールドワーク・勝坂茶屋での伝統野菜を提供
11月	本研究のまとめ（フィールドワーク事後指導）	B	アグリツーリズム②を実施。フィールドワーク・勝坂茶屋での伝統野菜を提供
12月	フィールドワーク報告書の作成	B	アグリツーリズム③を実施。都市部での販売および勝坂自治会へ成果報告
	本研究報告会の実施	A	予定通り
1月		B	フィールドワーク報告書の作成。（学内広報誌へ記事掲載。ホームページでの報告。動画作成

(3) 実績・成果と課題

日付	活動詳細1（5月～8月）	活動
5月	9 やまびこチャレンジ ホームページ公開	広報活動
	17 学内で伝統野菜アグリツーリズムに関する説明	広報活動
	20 北遠ガレット（去年収穫したそば粉を使用）の販売 (浜松市主催アクト通りふれあいデイ)	伝統野菜の提供（都市部）
	29 川名御神田の田植えに参加し、勝坂の伝統野菜について意見を聞く。	フィールド調査
	30 在来種「勝坂そば」を、地域住民から取得	伝統野菜の栽培・研究
6月	3 畑の耕作、種まきの整備	伝統野菜の栽培・研究
	9 夏野菜（トマト、きゅうり、ピーマン、なす：一般種）の苗の購入	伝統野菜の栽培・研究
	10 夏野菜の苗植え	伝統野菜の栽培・研究
	17 北遠ガレット（去年収穫したそば粉を使用）の販売 (浜松市主催アクト通りふれあいデイ)	伝統野菜の提供（都市部）
7月	15 北遠ガレット（去年収穫したそば粉を使用）の販売 (浜松市主催アクト通りふれあいデイ)	伝統野菜の提供（都市部）
	30 在来種勝坂産「太きゅうり」の経過観察及び在来種太きゅうりの初収穫	伝統野菜の栽培・研究
8月	7 伝統野菜栽培に関する相談（地域住民）	フィールド調査
	11 勝坂神楽茶屋の営業開始	勝坂地域での伝統野菜の提供
	11 浜松学院大学オープンキャンパスにて、伝統野菜アグリツーリズムを高校生に紹介	広報活動
	15 伝統野菜栽培に関する調査（地域住民）	フィールド調査
	19 勝坂産「太きゅうり」の販売 (浜松市主催アクト通りふれあいデイ)	伝統野菜の提供（都市部）
	30 伝統野菜栽培に関する調査（地域住民）	フィールド調査
	2～5 「太きゅうり」の観察、すみれ菜ご飯の試作	伝統野菜の栽培・研究

日付	活動詳細2 (9月～1月)	活動内容	週末移住	
9月	9	川名御神田の収穫の際に勝坂の伝統野菜について意見を聞く。	フィールド調査	8,9,15,16
	11	伝統野菜「すみれ菜」の観察	伝統野菜の栽培・研究	
	12	大根（一般種）の種まき	伝統野菜の栽培・研究	
	16	北遠ガレット（去年収穫したそば粉を使用）の販売（浜松市主催アクト通りふれあいデイ）	伝統野菜の提供（都市部）	
	20	浜松市市民協働センターの利用者団体連絡会議に参加し、伝統野菜の取り組みを紹介	広報活動	
10月	7	在来種「勝坂そば」の花の確認。夏野菜エリアの撤去、自治会草刈りに参加	フィールド調査	6,7,13,14 20,21,25,27, 28
	21	北遠ガレット（去年収穫したそば粉を使用）の販売（浜松市主催アクト通りふれあいデイ）	伝統野菜の提供（都市部）	
	23	勝坂神楽茶屋の営業：「すみれ菜」ご飯、空芯菜ご飯の提供	勝坂地域での伝統野菜の提供	
	25	アグリツーリズムに向けて、勝坂そばの生育状況確認	フィールド調査	
	28	伝統野菜アグリツーリズムの実施（在来種「勝坂そば」の収穫）	伝統野菜アグリツーリズム	
11月	3	すみれ菜を使った伝統野菜ブリトーの販売（ザ 山フェス）	伝統野菜の提供（都市部）	3,4,10,11 17,18,24,25
	11	勝坂神楽茶屋の営業：「すみれ菜」ご飯、大根（一般種）の葉を使ったゴマ炒めの提供	勝坂地域での伝統野菜の提供	
	18	在来種「すみれ菜」を使用した「すみれ菜まんじゅう」の販売（浜松市主催アクト通りふれあいデイ）	伝統野菜の提供（都市部）	
	11	「Soba Harvest Tour in Kassaka（勝坂そばの収穫）」の実施 市内在住日系ブラジル人8人参加	伝統野菜アグリツーリズム	
	24	在来種「勝坂そば」蕎麦干し状況の確認	フィールド調査	
12月	3	在来種「勝坂そば」の脱穀（浜松市主催アクトふれあいデイ）	伝統野菜の栽培・研究	1,2,8,9 15,16
	16	勝坂自治会と忘年会 在来種「勝坂そば」と蕎麦打ちのお披露目。また婦人部より、蕎麦打ち指導を受ける。	伝統野菜アグリツーリズム	
		在来種「すみれ菜」を使用した「勝坂ブリトー」の販売（浜松市主催アクト通りふれあいデイ）	伝統野菜の提供（都市部）	
	18	イースタン・フロリダ州立大学の学生を対象とした、在来種「勝坂そば」のそば打ち体験ツアー	伝統野菜アグリツーリズム	
1月	10	HGU Library News（浜松学院大学図書館広報誌）勝坂と伝統野菜特集記事掲載	広報活動	
	20	北遠おむすびセット（勝坂で収穫した大根を使用）の販売（浜松市主催アクト通りふれあいデイ）	伝統野菜の提供（都市部）	
	31	伝統野菜に関するアグリツーリズム画PR作成	広報活動	

成果

① 伝統野菜アグリツーリズムの実施（在来種「すみれ菜・ふときゅうり」の収穫）10月28日

伝統芸能と伝統野菜をテーマとしたツーリズムを実施した。伝統野菜アグリツーリズムについては、勝坂神楽の祭りの見学者を対象に参加者を募った。当初は、在来種の「勝坂そば」の収穫体験を予定していたが、「勝坂そば」が発育不足であり、急遽「すみれ菜・ふときゅうり」の収穫に変更した。すみれ菜については、料理に活用する、すみれ菜の特徴である鮮やかな紫色を煮出し方法、体験講座を実施した。

② 伝統野菜ツーリズム「Soba Harvest Tour in Kassaka（勝坂そばの収穫）」11月11日

浜松市内に長期に居住する南米日系外国人を対象として、そばの収穫を中心とした伝統野菜アグリツーリズム実施した。アンケート結果からは、食（伝統野菜）と自然・文化を含めた体験型な観光に魅力を感じたことを確認した。

③ イースタン・フロリダ州立大学の学生を対象とした在来種「勝坂そば」のそば打ち体験ツアー（12月18日）浜松市内キッチン型ワークショップスペース「黒板とキッチン」において、浜松市の魅力を伝えるプレゼンテーションをおこない、続いて「そば打ち体験」を実施した。イースタン・フロリダ州立大学の学生からは、「日本の伝統に触れて良い経験ができた、来年はそばの栽培から参加したい」と高い評価を得た。

④ 都市部での天竜区春野町勝坂に伝統野菜の広報活動

本事業実施中において、「アクト通りふれあいディ」及び「ザ・山フェス」に出店し、伝統野菜を使用した料理の提供を通して天竜区春野町勝坂地域の魅力を伝えることができた。

5月：北遠ガレット（勝坂産そば粉使用）25食

6月：北遠ガレット（勝坂産そば粉使用）29食

7月：北遠ガレット（勝坂産そば粉使用）26食

8月：勝坂産伝統野菜太きゅうり 15本

9月：北遠ガレット（勝坂産そば粉使用）26食

10月：北遠ガレット（勝坂産そば粉使用）26食

11月：すみれ菜まんじゅう 10食

12月：すみれ菜を使った伝統野菜ブリトーの販売（ザ・山フェス）190食

1月：北遠おむすびセット 35食

課題

- ① 広報不足で、当初計画した誘客数が見込めなかった。伝統野菜ツーリズムに関するホームページやSNSを構築しているが、より効果的な情報拡散の方法を研究する必要がある。
- ② 伝統野菜の栽培、料理開発、料理の提供、ツーリズムの実施等の実際の活動に専従し、研究の成果を科学的・客観的に評価することが不十分であった。

5. 地域への提言

地域住民の本研究への協力は、大学が本事業実施まで4年間に渡り関係を築いてきた成果であると考えられる。地域住民の協力（フィールド調査、聞き取り調査への参加、伝統野菜栽培の指導、料理開発の指導等）は、地域住民とのラポールが構築されていたことで実現できた。5年間に渡り、勝坂神楽の数年間に渡り参加していることにより、勝坂神楽の練習を通して参与観察を可能にしたと考えられる。本研究は、大学と自治会との連携協力協定から、自治会からの協力は担保されており、実際に自治会の役職の一つに大学担当があり、いつでも相談できる関係性を築いていることが大きい。

以上のことを踏まえて、地域への貢献を考える大学側は、地域に入り地域から信頼を得るまでには時間をかける必要がある。地域側には地域の大学生を受け入れる自治会の体制を作ることが肝要である。

6. 地域からの評価

本研究の在来種の栽培、特に「太きゅうり」、「すみれ菜」を活用した料理の提供（勝坂神楽茶屋）は高い評価を得ることができた。勝坂産そばについては、そば打ちを地域住民から指導を受けることができた。第1回目は「まだまだだな」と評価が低かったが、その後そばうちの練習を繰り返し、第2回目では、「こんな美味しい蕎麦はしばらくぶりだよ」と評価得ることができた。第3回目では、以前に勝坂神楽茶屋で実施に蕎麦を打っていた長老が参加し、長老直伝のそば打ち指導を受けることができた。

参考資料

1 アンケート結果

アンケート結果						
①	性別	男性	3人	女性	5人	
②	年齢	10代	2人	40代	3人	
		50代	2人	70代	1人	
③	勝坂で1番気に入った施設や場所					
	1. 勝坂茶屋	8人	2.ピンク小学校	7人		
	3.神の水	10人	4.八幡神社	9人		
	5.水車	8人	6.バンガロー	4人		
	7.清水神社	4人				
⑤	体験したいアクティビティ					
	1.農業体験	8人	2.伝統野菜の料理体験	7人		
	3.星空観測	6人	4.そば打ち体験	6人		
	5.キャンプ	5人	6.フィッシング	5人		
	7.川下り	3人	8.昆虫採集	1人		
	9.祭り	1人				
自由記述	浜松でもブラジルの野菜を育てたい。			なつかしい風景、ブラジルの風景を思い出した。		
	なつかしい風景、ブラジルの風景を思い出した。			ここは好き。また来たい。		
	人間はやはり土に触れるのが大事だと思う。浜松にこんな場所があると思わなかった。			大学生が話しやすくて、良かった。いろいろ話が聞けて良かった。		
	もっと多くのブラジル人に紹介したい。			自然もあるし、伝統もあるのが良い。		

2 ホームページ・SNS



<https://www.yamabiko-nlc.org/>